

語り継ぐ浜松—このまちで暮らして

# No. 03 趙驕陽

Zhao Jiao Yang



## ラッキーだったのは、知り合った人が みんなすごく優しい人たちでした。

でも、呼ばれたときは悩みました。中国での仕事も好きだし、日本だと言葉も通じないしどうしようと思って。夫は「1年か2年くらいだから大丈夫だよ」って。だから、仕事は辞めずに、休んで行きました。最初はずっと日本にいるとは全然考えてなくて、1年くらいで戻るかなど思っていたので、友達もできなかつたし、すごく寂しかったです。

——日本に来て何をしましたか？  
仕事は全然しませんでした。日本に来て2年目になったときに、夫も中国に帰る様子がないし、私も2年たっても日本語が全然しゃべれないから、そのまま帰るのは恥ずかしいと思って、日本語を勉強しようとして袋井にある日本語学校に入りました。その頃は日本語学校が浜松にはあまりなかったんですよ。

それから知り合いの人にHICEに誘われたんです。「ボランティアでもいいからどう？」って。そのときは中国人の友達もいないし、すごく寂しかったから、「やれることがあれば何でも」って答えました。

——最初からずっと浜松に住んでいますよね？  
そう、浜松に住んでいました。本当に最初はずっと寂しくて、日本語学校で少しあいつを覚えたけど、人と付き合うのはすごく怖くて。今でも覚えているのは、外に洗濯物を干そうと思っていたときに、ちょうど隣の主婦の人たちがおしゃべりをしていたので、自分は外に出ていけなくて。「どうしよう」と思って洗濯物を持って待っていたんだけど、ずっとしゃべっ

ているんです。「なぜ日本の主婦たちは部屋の中に入っておしゃべりしないの？」って思いました。私は洗濯物が外に干せてなくて困りました。今では笑い話ですけど。

——中国はそうじゃないんですか？  
中国では家の中に誘っておしゃべりします。日本は家の中に招き入れようとすると、すごく遠慮しますね。

そんな感じでなかなか友達ができなかったのですが、ラッキーだったのは、知り合った人がみんなすごく優しい人でした。何かあったときはすぐ声をかけてくれて、「中国のことに興味がある」とか「体操とか気功とか一緒にやりましょう」と声をかけてくれました。その頃は日本語があまりしゃべれなかった。耳では半分くらい聞き取れるけど、全然しゃべれない。でもみんながいつも家に来てくれて、体操や気功などをやって、終わったらまたしゃべって。それで段々耳が慣れてきたんです。

——同じくらいの歳の人たちですか？  
みんな私より年上の人。お姉さんという感じでした。朝の6時や7時に、みんなと一緒に散歩しました。今もまだ付き合っています。すでに引越して近所ではないですが、1、2カ月に1回は一緒に食事しています。いい人たちです。とても助かりました。

——HICEを紹介してくれた人もそのつながりですか？  
そうですね。小島さんという方が紹介してくれました。近所に住んでいたの

——小島さんとはどんな話をしたんですか？

小島さんはHICEでボランティアをやっている、と教えてくれて、私を連れてきてくれたんです。ただ、最初は何をしたらいいかわからなかった。そのときHICEはボランティアじゃなくて中国人の相談員がほしいということでした。そこで、結局、相談員をやってみようということになりました。

## HICEに入って

——中国人の友達より日本人の友達の方が多かったんですか？  
そうですね。イベントをやるとき、日本人の友達はみんなすぐ来てくれました。私たちはそのときは子供がいなかったんですけど、他の家族の子供も来て一緒に遊んだことがありました。家族みたいな付き合いをしています。今も毎年バーベキュー

## チョウ・キョウヨウ

1961年、中国大連に生まれる。父の仕事の都合で、子供の頃は中国各地を転々とする。仕事で先に日本に来ていた夫に呼ばれて1991年に浜松へ。HICEの他、市内の高校や大学でも中国語を教えている。同胞の中国人同士で助け合い、日本との交流を促進するための団体「中国文化交流会」を主宰。中国人のための日本語教室や踊りの教室を開催している。1994年からHICEの中国語相談員を務めている。

## 来日してHICEに入るまで

——来日前は、何をしていたんですか？  
大連のテレビ局で記者として働いていました。記者の仕事は私の夢でした。毎日新しい人と新しいことに触れるからすごく楽しい。本当はもっとやりたかったんですが、夫に日本に来てほしいと呼ばれたんです・・・夫は日本語が専門なので、日本で仕事をしていました。



大連のテレビ局では各地を訪れて取材しました



前列左から3番目が趙さん。右隣りが小島さん